

《2025 年 2 月（通算 340 回） 公開サロン報告》

\*\*\*\*\*

# 台湾駐在の楽しみ

## ースポーツ、食べ物、文化ー

\*\*\*\*\*

【日 時】2025年2月25日（火）19:30～21:30 ⇒ 終了後はオンライン懇親会（～23：00ごろまで）

【会 場】オンライン（Zoom）

【テーマ】台湾駐在の楽しみースポーツ、食べ物、文化

【演 者】笹原 勉（日揮台湾支店長）

【参加者9名】 ◎はNPO会員、○は会員外のサロンファミリー、無印はファミリー外

◎笹原 勉（日揮）、◎嶋崎 雅規（国際武道大学）、菅原 恭一（神奈川県立秦野総合高等学校）、  
○田中 俊也（三田市整形外科）、○張 寿山（明治大学）、◎中塚 義実（NPOサロン2002理事長／  
筑波大学附属高校）、○守屋 佐栄、◎守屋 俊秀、○吉原 尊男

【報告書】笹原 勉ほか

【キーワード】

台湾、スポーツ、食べ物、文化、笹原勉

### <目 次>

1. 台湾の概要
2. スポーツ
  - 2.1 野球
  - 2.2 サッカープレミアリーグ
  - 2.3 私のサッカー<ディスカッション①スポーツ編>
3. 食べ物・飲み物
  - 3.1 お薦め料理
  - 3.2 酔いどれライフ
4. 文化
  - 4.1 日式建築
  - 4.2 お寺がいっぱい<ディスカッション②食べ物、飲み物、文化>

本日の参加者はなじみの方ばかりなので、自己紹介は省略するが、台湾とのかかわりとしては、私は2021 年 11 月から台湾で仕事をしており、既に 3 年強が経過。台湾ではこちらのプロジェクトを遂行中。

### 台中LNG受入基地 第3期



顧客	CPC Corporation
場所	台湾・台中
能力	200 Ton/Hour x 8
役務範囲	EPC 再ガス化設備及び配管システム
コントラクター	JGC Holdings Corporation RSEA Engineering Corporation Mitsubishi Corporation Do & Find Resources Engineering Inc.
契約金額	US\$ 5.47億相当
期間	2022 - 2025



### 台湾駐在の楽しみ -スポーツ・食べ物・文化-

2025年2月25日  
笹原勉

#### 台湾駐在の楽しみ

- ・台湾の概要
- ・スポーツ
  - ・プロ野球
  - ・サッカープレミアリーグ
  - ・私のサッカー
- ・食べ物・飲み物
  - ・お薦め料理
  - ・酔いどれライフ
- ・文化
  - ・日式建築
  - ・お寺がいっぱい

今日は「台湾駐在の楽しみ-スポーツ・食べ物・文化-」というテーマで話をする。

## 1. 台湾の概要

50 年間の日本の統治の影響を受けて、多くの台湾の方は日本に対する強い親近感と尊敬の念を持っていると感じる。同じく日本に統治されていた韓国との違いとして、台湾は、インフラや社会制度が整っていなかった所に日本が入ってそれらを整備したこと、日本が去った後にやってきた国民党が先住の人々に圧制を敷いたため、まだ日本の方が良かったとの印象

### 台湾の概要

- ・人口：約2300万人
- ・面積：約3.6万km<sup>2</sup>（日本の約1/10、九州とほぼ同じ）
- ・日本の統治50年（1895～1945）
  - ・日本に対する強い親近感と尊敬
- ・日本大使館がない
- ・ニイタカヤマノボレ
  - ・国土の2/3が山地
  - ・富士山より高い山が3座、3000m以上は164座
- ・太陽が北にある！
  - ・北回帰線が通っている



をもたれたことが挙げられる。

台湾は、国家として日本政府から承認を得られていないため、大使館が存在しない。各省庁から「公益財団法人日本台湾交流協会」という民間機関に必要な人員を派遣し、大使館相当の業務を行っている。

台湾には富士山より高い山が3座ある。だから、日本統治時代には日本一高い山は富士山ではなく、台湾最高峰の新高山（ニイタカヤマ）であった。

## 2. スポーツ

### 2.1 野球

- 2024年プレミア12優勝で大フィーバー  
各種プロモーションは四半期GDP押し上げに貢献
- 嘉義農林(KANO)：1931年夏の甲子園で準優勝



#### プロ野球リーグ(中華職業棒球大聯盟)

- 1998年4チームで発足
- 八百長問題による人気低迷
- 2013年 WBC ベスト 8 で人気再燃
- 2024年から6チーム制
- 年間120試合、24回総当たり戦



日本工商会の会合で新生球団台鋼 Hawks の GM が講演してくれたので、内容を簡単に紹介する。



## 台鋼Hawksの取り組み

- 2024年に参入した新生球団
- 野球不毛の地・高雄を本拠地に（過去の2チームは数年で身売り）
- 平均観客数6,824人（リーグ3位）
- 入場料は収入の1/3
- チーム独自路線の地域密着型球団経営
  - 空戦(話題性)：「南部球団の北伐」
  - 陸戦(地域密着)：外国人選手の登録名を高雄の地名に、関係者の辻立ち
- 日本ゆかりの指導者、選手
  - 横田久則コーチ(元西武)、王柏融外野手(元日ハム)、モヤ内野手(元中日・オリックス)、小野寺賢人投手(元BCリーグ埼玉)、笠原祥太郎投手(元中日・横浜)



### 球団マスコット

愛称： TAKAO = 高雄 = 鷹雄  
鷹雄 = 英雄

背番号： 07（高雄の市外局番）

台湾では入場料が安い(恐らく 1000 円程度)にもかかわらず、入場料が収入の 1/3 を占めるということとは(Jリーグの平均は 15%)、球団としての経営規模は小さいと思われる。

他のチームと異なり、地域密着を掲げているとのことだが、辻立ちなどで地域住民と触れ合うのは球団職員と、地元出身選手のみとのことであった。

## 2.2 サッカープレミアリーグ

### スポーツ：サッカープレミアリーグ

#### プレミアリーグ(台湾企業甲級足球聯賽)

- 2017年8チームで発足
- 2018年乙級(2部)発足、入れ替え戦
- シーズンは4月～12月  
3回戦総当たり
- 2024年は1位：南市台鋼、2位：Futuro

#### 代表チーム

- W杯アジア予選2次予選D組  
6戦全敗(オマーン、キルギス、マレーシア)



サッカーのトップリーグは「企業」とつくので、完全なプロ化はされていない模様。

知り合いの日本人が銘傳大學に所属していたが、少年サッカーのコーチや飲食店のウェイターをしていたので、給料がもらえたとしても多くはなかったはず。

それでも、以下の表の通りJリーグや海外リーグでプレーした日本人選手も多く所属している。昨年は、森本貴幸選手が台中 FUTURO でプレーしていた。



## ・プレミアリーグの日本人選手

所属	背番号・氏名	Jリーグでの所属
新北航源	8 佐藤健太郎	元山口・京都他
	9 立石玄輝	
	26 金子尚樹	
Futuro	7 小川圭佑	
	8 小森由貴	元YSCC
	10 横山翔平	元群馬
	22 上原拓郎	元今治・熊本・札幌
	23 高山薫	元湘南
	50 松井謙彌	元水戸・C大阪・磐田
	88 桜内渚	元今治・神戸・磐田

所属	背番号・氏名	Jリーグでの所属
AC Taipei	5 一柳夢吾	元群馬・琉球・東京V
	14 鎌田凌生	
	16 楠山剛志	
	18 片田謙臣	
	31 内田潤	
銘傳大學	34 熊谷大和	
南市台鋼	6 成田壮	
臺灣石虎	10 山崎直之	元沼津
	37 出水太陽	
臺北Vikings	55 深澤佑之典	

### 【後日談】

- 1) 女子トップリークのチームに参加している日本人高校生によると、トップ選手は給料だけで生活しているとのこと。ちなみにその高校生も給料をもらっている。
- 2) 学校の部活動について台湾人数人に尋ねてみたが、中学・高校では授業が遅くまであり、その後も勉強が忙しいので、日本のような部活動はないとのこと。

## 2.3 私のサッカー

今までの駐在地と同様、台湾でもプレーを楽しんでいる。

組織がしっかりし競技性の高い JFC Taipei と、おじさんが子供たちも交えて緩やかにミニゲームを楽しむスローモーションズの両方に参加し、毎週末に球を蹴っている。

【後日談】 JFC の試合で、若手相手にムキになり、転倒して鎖骨を折ってしまった。

### JFC Taipei

- 日本人中心のサッカーチーム
- 部員約70名（駐在員・現地企業勤務者、学生）
- JFCのいいところ
  - 幅広い世代と一緒にサッカーを楽しめる！  
現在大学生など20代前半から60代の部員がプレーしています。
  - これまでのサッカー経験は問いません！  
JFCに入ってサッカーを始めた方もいらっしゃいます。
  - サッカーだけでなく、イベントも盛り沢山！  
新メンバーの歓迎会やBBQなどを実施しています。
- 国内大会：BML、外国人リーグ、松山カップ
- 国際大会：J-Asia Cup, OJIN Cup, F-Asia
- 社会貢献：日本人学校夏祭り、サッカー教室、海岸清掃活動




### スローモーションズ

- 日本人中心、週末に集まったメンバーでミニゲーム
- 活動場所：天母運動公園サッカー場(台北市立大学)
- 参加費：無料
- 活動時間：土日祝日の7:30～9:00頃  
(夏季は30分繰り上げ)
- 在台メンバー約30名+家族+OB  
募集は口コミのみ
- 緩いけど真面目、楽しむけど真剣

台北には、市民が無料で使用できるスポーツ施設が多くあり、スポーツ環境には大変恵まれていると感じる。



こんな場所でもサッカーが楽しめる。

### <ディスカッション①スポーツ編>

中塚：充実したスポーツ環境、うらやましいなと思いながら話をお聞きしていました。ここでいったん切って質問なり感想なりを述べる時間にしましょう。

私から一つ。台湾は暑いですね。スポーツをやっているのは朝だけかなと思ったら、この写真では暑い中でもやっっているように見えますけど。



笹原：そうですね、スローモーションズはいい加減な感じなので朝だけですけど、JFC は朝だけじゃなくて真夏でも、昼間にやっていますね。いくつものリーグに入っているので、ダブルヘッダー、トリプルヘッダーもやっています。

中塚：おじさんたちのダブルヘッダーというのはなかなか大変そうですね。

笹原：私なんかは出ないですけど、50 ぐらいの人で2つ3つもやっっている人はいますね。

中塚：若者のスポーツ環境はどんな感じですか。

笹原：私が関わっているところは若者もおじさんもみんな一緒ですよ。さすがに若い者が中心で、おじさんは行っても 15 分だけとか、前後半 15 分ずつだけとかでやっています。

中塚：例えば部活みたいなのは？

笹原：私も調べたことはないですけど、日本みたいな学校の部活ではないんじゃないでしょうか。

中塚：張さん、どうですか。

張：僕としては笹原さんと同じことをやってきているから、ああ、そうなんだな、楽しくやってるんだなという感じがですね。

さっきのトイレは、僕は先週までスペインに 2 週間ほど行ったんですけど、トイレにある的当てゴールはスペインも同じのがありました。私も利用しました。

あと部活の話ですが、台湾にはあるんじゃないかなと思います。やはり日本的な、学校でスポーツをする、部活ですするというのがあるって、例えば高校野球で昔、台湾の学校が出ていますよね。戦前ですかね。たぶんあるんだと思います。僕も把握したことはないんですが。

あと、こういうおじさんたちのサッカーや、最近やっているウォーキングサッカーとか。先日行ったスペインでも僕もやってきて、どこにでもこういうエンジョイ志向というか、スポーツをやって汗をかいて、終わった後に飲みたい人はビールも飲んでというのはどこにでもある風景で、逆に日本でもっとあってもいいのになという感じがですね。楽しそうで、とにかくお元気そうでよかったです。

笹原：はい。日本にいる時よりもたくさんやっています。

部活についてですが、私の職場の前に小学校があるんですけど、そのチームがどこかの野球大会に優勝したというのがありましたから、確かにありますね。

張：台湾はリトルリーグは強豪ですよ。

嶋崎：部活の件でいいですか。台湾の学校の部活動は、あるようですけどゆるいみたいです。勝つためにというより、みんなで楽しくやりましょうという感じでやっているようです。野球なら野球に本格的に取り組みたい場合は、学校外のクラブみたいところでやるようです。うちのゼミ生で台湾に留学した者が一人いまして、彼は野球部だったので野球をやってきたようですが、大学でも部活はあるけど、そこは割とゆるく、楽しみながらやっていると言っていました。又聞きでしかないんですけど、そのように聞きました。

中塚：するとさっき話があった、プロ野球やサッカーのプレミアリーグに入ってくる人は、どこでやってるんですかね。育成年代は街クラブみたいところでやってるのかな。

笹原：野球はひょっとしたら、高校野球みたいのがあるかもしれないですね。＜⇒後日談参照＞

張：おまけの情報ですけど、確か台湾代表の GK コーチがいま東京農業大学のコーチを兼務して、台湾と日本を行ったり来たりしてやっています。この前知り合ったんですけど。だから何ていうか、そのくらいのレベルで代表のコーチをやるぐらいの感じなのかなというところですかね。

あと黒田さんという、神戸の有名な高校の監督さんが、確か台湾の代表監督をしばらくやっておられたそうですね。そういうところでも日本への親近感を持ってくさっている感じがですね。非常に



いい監督だと言われてるみたいですけどね。

笹原：台湾のプレミアリーグのチームはホームページを持っていて選手の紹介もあるから、見れば育成年代でどこでプレーしたかというのはある程度わかると思います。すいません。今回そこまで見てなかったです。

中塚：ありがとうございます。スポーツネタは後で飲みながらでも続きができるかなと思います。

### 3. 食べ物・飲み物

#### 3.1 お勧め料理

多くの日本人が「台湾は料理がおいしい」と、グルメを楽しみに台湾旅行に来る。私を訪ねてくる旅行者の、グルメのリクエストトップ3は、「小籠包」「火鍋」そして「夜市」だろうか。もちろん悪くはないのだが、小籠包や火鍋は日本でも食べられるので、お勧めを聞かれたら紹介するのはこちらの料理である。

まず第一はガチョウの肉。日本ではほとんど食べないと思うが、台湾ではあちこちにガチョウ肉を食べさせる店がある。その中でも私が最も気に入っている店にお客様をお連れして、燻製のガチョウ肉を食べてもらうのだが、お気に召さなかったことは一度もない。

続いて、日本でも有名な魯肉飯。店によってたれの甘さ、肉の脂身の多さなどが異なり、現地の人々の中でも好みが分かれるところだが、最近私が発見した食べ方が、一緒に目玉焼きを注文し、上に乗せて食べる食べ方。注文する際に半熟を指定するのがミソで、黄身をつぶして魯肉飯と一緒に食べると、憧れの TKG あるいは牛丼生卵乗せに勝るとも劣らない美味しさが味わえる。



私が初めて台湾を訪れたのが、学生だった 1987 年。その時に一番うまいと思ったのが、台北駅近くの小さな食堂で食べた排骨飯。今でも大好きで、新幹線に乗って出張する際には、定番駅弁の排骨飯にどうしても手が伸びてしまう。ただ、駅弁の排骨飯は揚げた肉をたれで煮ているのだが、より好きなのは揚げた肉をそのまま食べるやつ。今度駅弁で売り出されないだろうか。





こちらも B 級グルメだが、牛肉麵も台湾で一般的だ。バリエーションが豊富で、スープには最も一般的な醤油味の「紅焼」、クリアな牛骨スープ「清燉」の他に、「麻辣」「トマト」等があり、「紅焼」だと辛さ、八角など香辛料の強弱で店により味が異なる。麵は主に細麵と、太麵、きしめんのような麵もある。私の好みは、「清燉」スープの細麵。中国には似たような蘭州拉麵があり、日本でも食べられるが、こちらの牛肉は醤油煮込みの薄切りなのに対し、台湾の牛肉麵は同じく醤油煮込みの塊肉で、より食べ応えがある。



清燉    紅焼    麻辣    トマト

旅行者からリクエストが多い火鍋は、鍋に仕切りがあり 2 種類のスープが選べるのが一般的だが、これは日本にも多いと思う。どうせならあまり日本にない鍋が良かろうと、日本のテレビ番組「孤独のグルメ」でも紹介された、中国東北地方の酸菜白肉鍋にお連れすることが多い。旅行者の評判もなかなかだが、北京生活が長い我々から見ると、エビ、カニ、ハマグリなどがたくさん入っている点がちょっと本場と異なる。それより、ひそかなお薦めが、台湾独特の牛肉鍋。街で「溫體牛」という看板を見かけるので何だろうと思っていたら、冷凍されていない新鮮な牛肉のことだった。南部台南では、溫體牛の赤身の薄切りに熱いスープをかけて半生状態で食べる「牛肉湯」が名物だ。牛肉鍋も同じような肉を使い、内臓肉や野菜などが入ったスープでさっと煮るもので、日本のしゃぶしゃぶとは違った、赤身肉の味を楽しめる。



言葉には、食に対するこだわりが出るもので、台湾では日本のイカに相当する言葉が透抽、魷魚、軟絲、花枝などたくさんある。それぞれヤリイカ、スルメイカ、アオリイカ、コウイカを表すのだが、恥ずかしながら私はこれらのイカがどう違うのかよくわからない。一方台湾の方は全く違う生き

物として区別しているらしい。それほどこだわるくらいだから、台湾のイカはとても美味しい。

逆の例が羊である。私は羊肉が大好きで、北京ではしゃぶしゃぶや串焼き等さまざまな料理法で堪能したものだ。台湾でも料理屋の看板で羊の字は良く見かけるのだが、どうも美味しくない。ある時にこんな看板を見つけて驚いた。この絵はヤギではないか！何と、台湾で飼育され食肉として供されている「羊」というはすべて山羊らしい。

朝食の私の定番は、豆乳に酢を加えて軽くおぼろ状に固め、小ネギ、小エビ、油條(揚げパン)、菜脯(たくあん)等を刻んで加えた鹹豆漿に、米粉と大根を練って切り餅状に切った蘿蔔糕(通称「大根餅」)は、私がお薦めするまでもなく、日本からの旅行者には有名な様で、台北の小さなお店にも日本人があふれるようになった。



### 3.2 酔いどれライフ

驚くべきことに、多くの台湾の方は普通に外食する時には食事と共に酒類を飲まない。テーブルにビール瓶が並んでいたら、ほとんど日本人の会食である。と言っても全く酒を飲まないわけではなく、酒を飲みたい場合は、それ専用の「熱炒」と呼ばれる居酒屋に行くのが一般的だ。よく飲まれるのは、ビール、ウイスキー、高粱酒で、これらは台湾でも作られている。ワインや日本酒も売られている。



私はお酒がなければ生きていけない方なのだが、困るのは日本酒が高いこと。同じ輸入醸造酒でもワインはそれなりのものを安く買えるのに、日本酒は日本の値段とほぼ同じ数字で売られている、つまり為替を考えると4~5倍だ。防衛策としては、日本酒好きが集まり、帰国時に買ってきた自慢の酒を持ち寄って飲み比べをする利き酒会を開いている。

それよりうれしいイベントが、年に数回開催される酒展。ビックサイトの様な国際展示会場に、日本酒、ウイスキー、ワイン、ビールなど世界中の酒が一堂に会する。事前にネットで申し込めば無料で入場でき、ほぼすべての酒を無料で試飲できるのだ。私はほぼ日本酒狙いなのだが、年に2回の大規模酒展なら、思いつくすべての銘柄が出品されていると言っても過言でない。蔵元の社長さんの参加も多く、話を聞きながら自慢の酒をいただくのはとっても楽しい。日本でも日本酒のイベントは数多く開催されるが、入場が有料だったり、試飲が有料だったりするので、基本的にタダでいろいろな酒が楽しめるイベントは日本にはないのではないかな。

そういえば、日本で入手困難な厚岸ウイスキーやイチローズモルトなども、有料にはなるが展示会で試飲可能。

普段あまり酒を飲まない印象がある台湾人も、このイベントには大勢詰めかけ、飲みすぎて壁際に座り込んでいる人も多数。彼らは普段どこにいるのだろうか。





この酒展は台湾駐在者の楽しみなのだが、旅行者にお薦めしている酔いどれツアーがある。台北からバスで1時間くらいの宜蘭には、台湾が誇るカバラン・ウイスキーの蒸留所がある。事前予約不要で工場見学や試飲ができ、もちろん工場限定品を含めた買い物もできるのだが、この蒸留所の出色なのは自分でブレンドしたマイボトルが作れること。試験管とビーカーを使い、4種類の樽で熟成された原酒をブレンドして味を確かめ、これだと思った比率を係の人に伝え、立派な箱入りのボトルが出来上がるのだ。ここまではいろいろなメディアで紹介されているので、台湾在住者なら知っている人も多いのだが、あまり知られていないのが、蒸留所から徒歩20分位のところにある Jim & Dad's クラフトビール工場。台北の迪化街近くに直営店を構えるが、こちらはレストランが併設されており、10個以上のタップが並ぶ壁の裏側は醸造スペース。好きなクラフトビールを飲みながら、ピザなど美味しい料理を味わうことができる。更にビール工場の隣には養蜂場があり、はちみつドリンクやはちみつアイスクリームを食べて酔いを醒ませば、バスに乗って午後には台北に帰り着くことができる。もう少し時間がある方は、宜蘭で有名な櫻桃鴨(Cherry Duck)の北京ダックや、お隣の温泉地礁溪で釜で焼いたチキンを豪快に手でさばく甕窯鶏等を夕食に組み込めば、酔いどれ一日ツアーの完成である。



## 4. 文化

### 4.1 日式建築

私は、秋田にあった築 140 年の蔵を鎌倉に移築して自宅として使うほどの古建築好きなのだが、台湾には日本統治時代の建築物が、立派な官庁建築から、瓦屋根板壁の民家まで、沢山残っており、建物巡りの趣味が楽しめる。しかも現地の方々が大切に保存、利用して、内部が一般に開放されている建物も多い。こちらの建物を車で回ると、外から見るだけであれば半日で回ることができる。

\*：内部見学可

			
①旧平梅屋敷* (国父史跡纪念馆)	②旧大坂商船株式会社支店* (国家攝影文化中心)	③旧台北郵便局* (台北郵局・郵政博物館)	④旧台湾総督府鉄道部* (鉄道博物館)
			
⑤旧西本願寺鐘樓(公園)*	⑥龍山寺*	⑦旧台湾總督府専売局 (台湾煙酒公司) 隣は總統官邸	⑧旧総督府(總統府)*
			
⑨旧台北公会堂* (中山堂)	⑩旧台湾總督府博物館* (國立台灣博物館)	⑪旧台北刑務所官舎* (榕錦時光生活園區・店舗)	⑫中正紀念堂* 毎正時に衛兵交代あり
			
⑬旧台北第二高等女学校 (立法院)	⑭旧台北州庁* (監察院)	⑮旧台北市役所 (行政院)	⑯旧職員宿舎* (台湾文学基地：展示)

ところで、台北は冬には連日しとしと雨が続き、夏は恐ろしいほどの暑さとなる。気候的にはあまり住みやすいところではない。そのような気候での特徴的な建築様式が、建物の二階部分が歩道にせり出した騎楼というもの。中国南部にもよく見られるのだが、これにより雨と強烈な日差しを避けることができる。日本統治時代には騎楼の設置が義務付けられたとも聞いたことがあるが、最近のマンションなどには設置されていないものも多い。私が住居を選んだ際、基準の一つが、騎楼の下を歩いてバス停まで歩けること。それほど、台北の気候は厄介なのだ。





## 4.2 お寺がいっぱい

台湾に来て印象に残ったことのひとつが、街中に廟と呼ばれるお寺が多いこと。歴史のある廟から、ビルの一部を使ったような小さなものまで、本当にいたるところにある。皆さんが信心深いようで、若い人でも、廟の前を通りかかると立ち止まってお祈りをする姿をよく見かける。これらの廟は、どんな由緒正しい廟でも拝観料は取られないところが、中国と大きく違うところ。日本との違いとしては、一つの廟に仏教の観音様、道教(?)の関帝、土地神など、様々な神様が祀られていること。また、お供え物も日本と異なる。台湾に来たばかりの頃、テーブルに山と置かれているお供え物を持ち去る人を見て驚いたのだが、こちらの習慣では、お供え物は一旦置いて神様に気持ちを届けた後、残った物体は自分で持って帰るのだそう。



台湾にも、由緒あるお寺のお祭りのようなものがある。台北で、有名な龍山寺とならんで、古い歴史を持ち国定史蹟にも指定されている大龍峒保安宮は、清代の年号や大正、昭和と書かれた扁額も見られる、わたしのお薦め廟なのだが、こちらのご本尊「保生大帝」の誕生日旧暦 3 月 15 日にかけてのお祭りはおもしろい。民間演劇が連日上演され、ご本尊が護衛の神将や鳴り物、山車の長い行列共に近所を練り歩く遶境という巡礼も行われる。巡礼では、通り道に廟があると一行はいちいちその廟に挨拶し、受け入れる方も爆竹や神将の踊りで出迎えるので、一日掛かりの巡礼となる。



誕生日の夜に祭はクライマックスを迎える。保安宮の前に紙製の獅子が設置され大音響の爆竹と花火が 15 分ほど続いた後、獅子に火をつけて燃やすのである。この廟は飛行機が松山空港に着陸する飛行ルート真下の真下なので、飛行機が通らない時間を狙って花火を上げる。国定史蹟になっている木造のお寺の前の狭い道で、こんなことやって大丈夫かと心配になるような激しい花火と炎の饗宴である。台北では他に萬華の青山宮などでも同様なお祭りがあるので、機会があれば是非ご覧いただきたい。

### <ディスカッション② 食べ物、文化、その他>

中塚：ありがとうございました。盛りだくさんで、とても面白かったです。  
このお祭りも、お寺も、あるいは爆竹をバンバン鳴らすのもそうだけど、もともと中国大陆の人たちが持っていた慣習ですよ。台湾に昔から住んでた人たちのお祭りじゃないですよ。

笹原：違います。台湾に昔からいる人は、公式にも「原住民」と言うんですけど、原住民のお祭りに

も面白いものがあって、こういうのとはちょっと違うお祭りですね。

守屋(俊)：もともと3000m級の高い山があって、そこに住んでいる人たちは、そもそも首狩り族だったという話があるんですよね。だから風習は中国本土とは全然違うんですよね。

笹原：全然違いますね。日本統治時代は「高砂族」って言ってました。

守屋(俊)：「蛮社の獄」というのがありましたね。

笹原：ありましたね。民族的には1つじゃなくていくつかの民族が分かれてるんですね。

守屋(俊)：だから清の時代に、台湾は大変だからいらないので日本に引き取ってくれという話があったということを読んだ記憶があります。だから、韓国は日韓併合だったんですけど、台湾はもらったんです。ですよね、張さん。

張：まあ、考え方次第ですね（笑）

守屋(俊)：（笑）というふうに読んできました。

笹原：ちなみに原住民の方には身体能力の高い方も多くて。プロ野球選手でいうと例えば郭 泰源（クオ・タイユエン、かく たいげん）さんとか、陽 岱鋼（ヤン・ダイガン、よう だいかん）さんとかが原住民ですね。嘉義農林が甲子園で準優勝したときのピッチャーも原住民です。

守屋(俊)：嘉義農林の映画はまだ見てないんですけど見たかったですね。

笹原：日本人の監督が、中国系と原住民と日本人の生徒を融合してチームづくりをしたということもドラマの柱の一つとなってますね。

中塚：ありがとうございます。嶋崎さん、せっかくなので、先ほど笹原さんが紹介された「酔いどれツアー」の感想をぜひ聞かせてください。

嶋崎：行ってきました。宜蘭（イーラン）ってバスですずっと揺られて行くんですけど、どちらかというとすごい田舎で、こんなところに何かあるのかなというようなところだったんです。まずカバランは非常によくて、私ちゃんと、先ほど笹原さんの写真にもありましたマイボトルも作ってきました。

そこから歩いていくと養蜂場があって、その先にビール工場があるんです。ここも大丈夫かなって思うほどのところにポツンとあるんですけど、ビールも美味しいし、食べ物も美味しくて。あまり人は行かないだろうなと思うようなところでしたが、とても楽しいところでした。

台湾に行った時は、笹原さんにどこ行ったらいいか聞いて、言われたところに全部行ってきたという感じです。嘉義にも行きましたし、阿里山（アリサン）に行って、それから日月潭（リユエタン）とか、ホテルもここに泊まったらいいよっていうところにちゃんと泊まって、台北では笹原さんと一緒に食事をさせてもらったり、酔いどれツアーに行ったりしました。最後に総督府が、ラッキーなことに公開日だったんです。それに行き、すごく面白かったですね。台湾総督府の中をずっと見て歩いたんですけど、そこで大学の後輩にばったり会うということもありました。彼が台湾にいるのは知っていたんですけど、彼も日本人の友人を連れて案内に来ていてばったり会い、お互いに驚いたと

いうこともありました。

本当に台湾はとても楽しかったです。かみさんと2人で行ったんですけど、また行きたいねと言っています。今年は行けなかったんですけど、また来年ぐらい行く感じの勢いです。

食べ物としては、シェントウジャン（鹹豆漿）に結構ハマりました。朝ごはん。日本に帰ってからも、簡単なので、自分で作ってよく食べています。豆乳とお酢で簡単にできるので、あとはザーサイとか、何かを少し刻んで入れるととても美味しい朝ご飯になるので。それと現地では揚げパンの朝食。だいたいローカルのお店は台北では朝からやっているの、ホテルから歩いて行ってそういうところで朝ご飯を食べるという生活をしていました。ざっと以上です。

中塚：ありがとうございます。まだ発言されていない方からも感想をいただけないでしょうか。

菅原：ちょっとくつろぎモードで聞いていました。自宅の寝室でこっそり参加しています。

どうしても聞きたいことが一つあります。食べ物のことです。笹原さん、台湾はカプトガニを食べるって聞きますけど、食べますか。あまりおいしくないと思いますが。

笹原：台湾で食べたことはないけど、香港で食べたことがあります。

菅原：香港も台湾もありますね。

笹原：珍しいってだけで、そんなに美味しいかなって思いますね。

菅原：そりゃおいしくないと思いますよ。解剖しても臭いし。台湾って海に囲まれているので、海鮮料理がもっと食べられているのかなと思ったんですけど、どうですかね。

笹原：食べますね。こんな感じのお店もありますし、多いですね。

菅原：なるほどね。食べ物と離れますが、先ほどのお祭りとか、お寺も多いという話ですけど、台湾で一度線香が禁止されたという話を聞いたような気がするんですけど、そんなことはないですか。

笹原：台北の、ほんとうに街なかのところでは禁止されているところもあるようです。一部ですね。全部じゃないです。たくさん人がいると怖いですよ。でもまだ多くのお寺では線香やってます。

菅原：なるほどね。あと最近よく言われてますけど、中国が攻めてくるとか、そういう危機感が高まっているのですか？

笹原：一般の人からはそういう危機感はいままったく感じられません。ただ、私はいま国営企業向けの仕事をしてるんですが、我々の派遣スタッフの中には、大陸からの中国人もいるんです。その人たちに対して、秘密保持をしっかりとするようなような指示は出されていますね。

菅原：でも結局、中国本土とも結構ビジネスでは交流してるんですよ。

笹原：していますね。大陸の人が台湾に行くのは非常に難しいんですけど、台湾の方が中国に行くのは比較的簡単です。



菅原：なるほど。で簡単に戻ってくれるんですね。

笹原：戻って来られます。

中塚：ありがとうございます。そろそろ予定していた時間になりました。笹原さんがとてもゆたかな暮らしをしていることがわかり、ますます行ってみたい思いが募る今日のお話しでした。ありがとうございます。ぜひこの顔ぶれで行ってみたいですね。

では残れる方は、5分後ぐらいに乾杯するようなイメージで、飲み物なり何なり用意して、もうしばらく過ごしましょう。ここで帰られる方もおられます。それぞれのペースで動きましょう。

どうもありがとうございました。

(続きはオンライン懇親会)